

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	◎普段より管理者から地域密着型になった経緯等が会議やミーティングで話されている。 ◎理念は常に、玄関、リビングの見やすい場所に掲示してある。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	◎普段の生活の中で職員が日々のサービス提供場面に反映させている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	◎理念や重要事項説明書は普段から玄関、リビングに掲示し利用者、職員、家族、来園者がいつでも確認出来る様になっている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	◎隣接する通所介護サービス利用者とは普段から交流が有り、顔なじみの友人、地域の人、親戚と顔を合わせる機会となっている。 り、学校、保育所等へ出かけたり、訪問してもらい交流を深めている。 ◎部外者が施設訪問、ボランティアや見学希望の際は、事前に入居者にその旨説明し了承を得ている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	◎職員全員が自己評価を行い、内容を確認する等職員も一緒に評価に取り組むことで自分たちの勉強不足な部分を再確認し、改善に取り組んでいる。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	◎推進会議で毎月の活動報告、自己評価、外部評価等、常に入居者に関わる事を報告、アドバイスを頂きサービス向上につなげている。定期的に外部の人が会議に参加する事で、利用者の意欲向上や、家族地域とのつながりを深める機会ともなっている。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	◎定期的に法人の広報誌、自己評価、外部評価の結果を提出し報告している。利用者の重度化の問題や、認知症の進行によるサービス困難事例、等があれば相談している。又日々のサービスのあり方が、他事業所とかけ離れていないかを確認することで、サービスの向上に取り組んでいる。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	◎研修を通して、全職員が権利擁護や成年後見制度についての概要に理解出来る様に取り組んでいる。	○ ・今年度も勉強会を予定している。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	◎普段からミーティング等で虐待について説明して居る。自分自身が気付かないうちに虐待につながる場合もあるので、他事業者からのスーパーバイズを受けたり、日頃の言動や、コミュニケーションのとり方、内容等を確認し、職員全員が理解できるようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	◎契約時重要事項説明書を添付し、説明をして同意を得ている（理念や方針等）。特に医療面や、費用の事等家族が心配な部分について詳細に説明しできるよう配慮している。		
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	◎利用者より訴えがあった場合は、出来るだけその日のうちに素早く対応し、日数が必要な場合は本人にその都度説明し理解してもらっている。 ◎運営推進会議にも利用者が参加し意見が出せるようしている。		
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	◎毎月活動報告と担当者よりの一言を入れ広報誌を発行している。また、法人の広報誌を3ヶ月に一度発行している。 ◎利用者の金銭管理状況は出納帳に記録し、毎月家族より捺印をもらい、領収書添付して毎月報告している。		
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	◎家族が毎月面会にいらしたとき、広報誌等を渡す際に意見や要望等を確認している。 ◎玄関に苦情窓口を設置している。また、重要事項説明書を掲示して外部への苦情申し立て出来る旨、うたっている。		
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	◎毎月職員会議等で意見や提案を出せる場を設けている。		
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	◎行事や通院等に配慮した勤務体制を取っている。 ◎急に職員が休んでも対応できる勤務体制になっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	◎移動は一ヶ月前に発表する為きちんと引継ぎがなされている。 ◎利用者にも事前に説明し理解を求めている。		
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	◎毎月園内研修、リハビリ研修、その他2ヶ月に1回法人内のグループホームでの必要な研修を行い、育成に努めている。また、毎月テーマを決めて勉強会をするように努めている。		
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	◎法人内に4グループホームがある為、普段より情報交換を頻繁に行っている。又地域の同業者が集まるグループホーム協会に加入し、研修や交流を通しサービス向上に繋げている。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	◎法人内で定期的な交流会や職員同士の友好を深める機会を設けている。希望者にはリフレッシュ休暇を取れるように配慮している。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	◎健康診断を毎年実施している。 ◎年2回の職員の人事考課を実施し向上心につなげている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	◎相談があった場合は担当しているケアマネと一緒に直接面談する機会を設けている。		
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	◎相談があった場合は担当しているケアマネと一緒に直接面談する機会を設けている。 ◎必要に応じて地域包括センター、担当ケアマネ等協議して本人へのよりよいサービスが得られるようにしている。		
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	◎面談し、隣接する通所介護、特養短期入所を活用し見学等を行いながら、本人がスムーズに入所出来る様に援助する体制が出来ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	◎本人の生活歴を把握し、本人の生活を重視し出来ることを職員と一緒に見つける取り組みをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	◎最低月一回は面会をお願いし、直接家族に情報を提供し家族からの要望や意見等を共有する取り組みをしている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	◎本人の状態や生活を毎月の広報誌と面会時に口頭でも報告している。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	◎行きつけの美容院や病院等今まで関係等が保てるよう援助している。 ◎通所介護で来ている地域の人との交流も継続できる様に支援している。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	◎共同で作品作りをしたり、法人内の他グループホームとの交流会に参加し、協力して勝利する喜びを味わう取り組みをしている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	◎サービスが終了しても、担当ケアマネを通じ本人の状況を確認したり、必要があれば家族の相談に乗る等のかかわりを大切にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	◎本人の夢をかなえる（ドリカム）取り組みをしている。担当者と入居者が取り組みたいこと、行ってみたい場所を話し合い出来ることを援助している。		
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	◎入居者、家族等より生活歴、趣味の把握に努め普段の活動や生活に生かしている。		
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	◎日々の生活の中から生活のリズムや出来ることを見つけ、チャレンジすることにより新しい発見が出来ることにも取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	◎本人の希望も取り入れているが、現在本人に必要なことを家族の意見も聞きながら、職員の気づきを取りいれて介護計画を作成している。		
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	◎介護計画の実施期間明示し見直しを行っている。また、変化があった場合は随時見直しを実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	◎担当者による毎月本人の状態のまとめと、計画担当者によるモニタリングを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	◎家族より希望があれば、本人の居室に宿泊可能である。 ◎車椅子利用者が規制する際の送迎を援助している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	◎地域の保育所、小学校、中学校との交流が出来る。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	◎地域の美容院、温泉へ出かける支援をしている。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	◎地域包括支援センター（法人で市より委託）とは普段より交流が有り、いつでも連携がとれる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	◎協力医院やかかりつけ医の協力が出来ている。 ◎緊急時、定期受診で変化があった場合は家族へ報告を常に行なっている。		
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	◎協力医院に精神科の医師も確保している為、相談出来る体制が取れている。		
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	◎利用者の状況は隣接する特養看護師に連絡済で会議等でも報告している。感染予防や、疾病時の相談、協力体制が出来ている。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	◎家族、医療機関、ケアマネと情報交換をしながら退院に向けて本人、家族にとってより良いように協議している。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	◎家族には常に本人の状態が把握出来る様に報告し、かかりつけ医とも協議しながら家族の意向を確認している。		
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	◎家族の意向と治療の有無により判断し支援している。特養への移項も協議するなかで家族へは説明している。（年一回の個別面談を家族と行い終末期への方針も確認している）		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	◎情報交換をきちんと行い、スムーズに馴染める ように援助している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	◎常に尊厳のある対応と声掛けを前提で動くよう に職員で統一している。 ◎記録は常に決まった場所で保管している。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	◎買い物や外食等を行い自分で選ぶ楽しみを支援 している。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切に、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	◎生活歴、趣味、得意分野を把握しその人らし い、生活のに取り組んでいる。（菜園、花、手工 芸、リハビリ等）		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	◎外出時は衣類選び出来る様にしている。又、毛 染め等行なっている、希望があれば美容院へも連 れて行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	◎嫌いな物を把握し、代替食で対応している。 ◎職員と下ごしらえ、配膳、後片付けを行なっている。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	◎午前、午後のおやつと飲み物の好みを把握し、提供している。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	◎排泄表を付けて、便秘への対応やトイレ介助の声掛けや援助をしている。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	◎入浴する際は、職員が常に援助出来る様になっている。（車椅子利用者は特養の座ったまま入浴出来るお風呂で入浴している） ◎希望した場合、近所の温泉に連れていっている。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	◎日中は活動的に過ごす事より、夜間の安眠につなげているが、昼寝や、休息の時間を儲け疲れないう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	◎農家出身者が多い為、菜園、花を育てる支援をしている。 ◎掃除、食事の準備、配膳、後片付け、洗濯干し、洗濯たたみなど日常の作業もできることを一緒にやり援助している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	◎季節喫茶で自分で好きなスイーツと飲み物を選びお金を持参し購入する援助している。外出時や買い物の際は自分の使える範囲内で買い物を楽しんでいる。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	◎毎月の外出行事を計画している。他に、希望があった場合や新聞で催し物がある場合は車の確保が出来る時はその都度外出しているまた、買い物、ドライブ等利用者の希望に合わせも援助している。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	◎ドリカム（夢を叶える）を実施して、本人が行きたい場所やしてみたいことの援助を実施している。（夫の命日に墓参り、海を見たい、新聞に載っていたお菓子を食いたい、宵宮の日に帰りたい、大きい温泉に入りたいなど）		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	◎電話の援助、遠い子供たち、親戚等とのはがきの援助を行なった。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	◎訪問者があった場合は、ゆっくり過ごせるように飲み物等の援助を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	◎法人全体で身体拘束は行わないことを前提にケアを行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	◎日中は玄関に施錠はしていない。帰宅等の訴えのある入居者には職員が付き添うようにしている。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	◎リビング全体を確認出来るため、常に全員の所在確認に配慮している。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	◎危険な洗剤等は目に見えない場所で保管している。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	◎アトファム報告書を作成し常にリスクを意識し、介護事故の予防や、再発に取り組んでいる。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	◎緊急時の研修を実施、また救急法を消防署より講師を招いて実施した。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	◎年２回入居者も実際に避難して実施している。又、毎月避難路の確認や消火器の使用方法等の確認、夜間に入る前に特養夜勤者と一緒にシュミレーションを毎日実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	◎家族には本人の状態と事故につながる危険性に付いて普段から話をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	◎毎日バイタル測定を実施して変化のあった際は特養看護師に相談やアドバイス等をもらい対応している。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	◎服薬内容を常にファイルして常に確認できるようになっている。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	◎排泄表を付けて早めに牛乳や水分補給、体操等を行い薬に頼らない援助に心がけている。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	◎食後の歯磨きも声掛けや援助を常に行なっている。又、外出から帰宅した祭もうがい手洗いの援助をしている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	◎栄養士がバランスの取れた献立を作って提供している。 ◎午前、午後おやつ時間を決め、飲み物と一緒に提供している。	○印 (取組んでい きたい項目)	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	◎感染症の予防の為普段から掃除等に酸性水を使用している。 ◎外出から帰宅した際はうがい、手洗いをする様に声掛けと援助している。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	◎毎日まな板を熱湯消毒し、漂白している。 ◎冷蔵庫の掃除を毎週月曜日に行い在庫確認も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	◎玄関前にプランタンに花を植えている。また、建物の隣に菜園を作り、なす、トマト、きゅうり、枝豆を作っている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	◎リビングに家庭で使用している応接セットが置かれ、テレビもあり常にリビングで過ごせるようにしている。 ◎サッシや窓が大きく確保され、明るく光の調節が出来る様にレースのカーテンを付けて調整している。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	◎いつでも気軽に過ごせる場所として居間に応接セットが置いてあり思い思いに過ごしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	◎位牌を持参して毎日ご飯をお供えしたり、テレビの好きな人は自宅からテレビを持参し自分の好きなテレビ番組を見ている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	◎窓の開閉をこまめに行い、換気している。又、温度計と湿度計で温度調整も行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	◎廊下には手摺が付いており、リハビリや歩行時に活用されている。 ◎洗面所も各部屋に付いている。また、洗濯物はベランダ、各部屋に干しており、自分で自分の洗濯物を干し、紛失防止や安心できる様に援助している。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	◎居室がわからない人には目印をつけて工夫したりしているが現在は全員が自分の居室を把握している。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	◎敷地内に菜園を作ったりプランタンの花を植えたり、冬でも隣接している特養まで散歩に出かけたりしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

今年後も春から秋にかけて外出行事を多くし、事業所として力を入れて取り組んでいる。外出時は9名中6名の方が車椅子での移動であるが、身体的低下も有り、体力がある今のうちに遠出したいと思っている。またドリカム（DREAMS COME TRUE・・・夢を叶える）を実施。担当者とう入居者が話し合って希望する夢について実施したいことや、行って見たい場所、日程等を決めて実施している。（現在までに海へドライブ、命日に墓参り、畑作り、新聞に載っていたお菓子が食べたい、大きい温泉に入りたい、宵宮に家に帰りたい）